



九月

# パストラル尼崎

長月

No.102 2020(R2)年8月25日

〔編集・発行〕

パストラル尼崎  
尼崎市潮江1丁目10-2  
Tel. 06-6493-0521  
Fax. 06-6493-0301  
発行責任者：山本 弘樹

## ◆八月の歳時記◆

### 「敬老の日に寄せて」

最近、「高齢者」というカテゴリーも人それぞれで大きく違ってきていませんか。二〇代でもドンヨリと覇気のない青年もいれば、今回ご紹介する滝野さんのように、八十歳を過ぎててもなお、キラキラ輝いている方もいるからです。

滝野さんは、二十数年前の六十三歳の時に日本最高齢のシニアダンスチーム「ジャパンポンポン」を立ち上げました。最初は好奇の目で見られた事もあったそうですが、今では世界でも名の知れたダンスチームになっています。

平均年齢七十一歳、おそろいのボブのウィッグに、スパンコールがキラキラ光る超ミニスカートの衣装を身にまとい、手にはキンキラのポンポン。リズムに合わせステップを踏むと、観衆からごよめぎが起ります。



85歳時の滝野さん

「おばあちゃんたちがチャダンス？と思う方も多いでしょう。私自身もそうでした。だからこそ還暦を過ぎてチャダンスを始めたのです。年だからって出来ない事はない」のがチャダンスをはじめた理由。そして二十年以上続けてきたのは、ただただ楽しいからです。」と笑顔で話す滝野さん。

その内容は結構ハード。指導する先生には「絶対にレベルを下げたくない！」とお願いしているそうで、その言葉どおり、練習はほとんどのメンバーが休まず、最高齢の滝野さんは、ラインダンスを乱さない為に、ストレッチを欠かさず行っているのだとか。・・・ジャパンポンポンのモットーは「夢と元氣と希望を与えること」。「五十五歳以上、容姿端麗」という厳しい？入部条件があるにも関わらず今では二十四人のメンバーがキラキラ活動しています。（一昨年取材記事より）

## 「兼高かおる」さん

今年2月、淡路島の兼高かおるさんが館長をつとめていた「兼高かおる旅の史料館」が閉館した。昭和の時代、子どもながらも当時放映していた「兼高かおる世界の旅」で流れていた「80日間世界一周」やパンアメリカン航空の美しい機影、そして何と言ってもこんな美しく聡明な人が世の中にいるのだ！と少々たびれた母親の姿と比べて（失礼）目が釘付けになったものだったが、今回はじめて彼女が神戸出身でありインド人の父をもつ方であることを知る。あの黒柳徹子さんの先輩でもあるそうだが、「在校生は門から一列に並んでキャーキャー言いながらお迎えしたほどの大スターだった」と語っている。

調べて見れば、そのアグレッシブさは半端ない。ただの旅番組のタレントではなく、企画制作などすべて彼女が行っていたそうだが、初めて南極点に到達した女性の1人であったり、日本の首相より先にケネディ大統領に会っていたり、ミクロネシアの大酋長に島をプレゼントしてもらったりとまるで夢物語。旅した取材国150か国、距離にしてなんと地球180周に相当するそうだ。そしてそのスタイルは、砂漠でも秘境でも基本ワンピースでそのエレガントなスタイルは生涯通して貫いた。晩年は「独身なので財産を残して死んでも仕方ない」と奨学金給付も行う。昨年90歳没、最後まで見事な人生の旅人だった。



若い頃の兼高かおるさん

## 手指の消毒

コロナウイルス防止で重要な「手指の消毒」ですが、昨年8月、パストラルシニア大学で「高齢者とインフルエンザ」というテーマで尼崎市保健所から講師を招いた際、併せて「手洗いチェック」を実施した事を覚えておられますか？

シニア大学の参加希望者全員に、通常の手洗いをして頂いたあと、手にブラックライトを当てて、洗い残しをチェックするという企画でした。（右画像）



その時、多くの方に共通していた洗い残しの部位が『親指』と『指先』『指の間』でした。ブラックライトに照らされてイヤな光を放っていましたが、今、さかんに行政や専門機関から指摘されている洗い残しの部位もやはり共通しています。ぜひ、下の図を参考に重点的に手洗いを励行しましょう！

